

芸亭

Nara Prefectural Library and Information Center

奈良県立図書情報館

vol.12



図書展示「本のヌード展」(2019.11.1~12.26)より

車内のスマホと本の風景

奈良県立図書情報館長 千田 稔

電車の座席で本を読んでいる人を美しく思うことがある。男女、年齢を問わずである。もちろん私の主観に過ぎないことではあるが。

電車の座席では、スマホをいじくっている人は圧倒的に多い。その中で本に目を遣っている少ない人たちが、私には、大げさな言い方だが、輝いてみえる。なぜかという、マジョリティに埋もれているマイノリティのけなげさを思うからである。だけど、このような私の思いは、本を読んでいるマイノリティの人たちにとっては、大きなお世話で、本が好きだから読んでいるだけだと一笑にふされるであろう。

上に書いたことは、車内の空間を占める割合のようなものから、私の独断を述べたが、それを時間の問題にするとどうか。多数を占めるスマホは時代の先端的道具で、本は昔の産物である。私の目には、ずっと昔からある本を読んでいる人の方が美しく見えるのはなぜか。それは、スマホには、先を争う人間の浅はかさが漂うからである。

Contents

巻頭言	
車内のスマホと本の風景	1
本をめぐるイベント	2
2019年度の図書展示から	4
明治期公文書のデジタル化	6
洋書の収集について	7-①
館内設備のリニューアル	7-②
蔵書検索に関するリニューアル	8
2019年度のイベントと展示	9

本をめぐるイベント Events around



9/8 匂いの図書館ワークショップ

本には、人の歴史、時間、文化の軌跡があります。私たち人間の肉眼では可視化できない本の旅路や人との関係性を、残香から紐解き、その匂いから自分を振り返り、また語り合い、他者を知る機会を楽しもうというワークショップです。当日は美術家の井上尚子さんと臭覚研究者の白須未香さんをコーディネーターに、本とその匂いの関係や、匂いの分析などのレクチャーの後、参加者が実際に館の書架をまわり、気になる匂いのする本をピックアップし、各自が持参した本も



交え、ページをめくる音や紙の肌触りや重さ、時代が物語る焼けた紙質、新しい本のインクの匂いなどを感じながら、参加者同士が匂いの分析や長い時間を経て紙に蓄積された見えない記憶を香り(匂い)で読み解きを試み、本と紙の関係性を見つめ直しました。さまざまな本の香りを出発点に、参加者同士が語らうことで、多角的視点、感覚を養うイベントとなりました。なお、10月22日～12月8日には、ピックアップされた本の中からさらに10冊を選び、専門的な匂いの分析結果を匂いのスパイダーチャートとともに展示し、ワークショップの総括を行い、他の来館者にも追体験できる記録展を開催しました。



9/23 「本をつくる」Vol.1



本ができあがるまでのプロセスやその舞台裏を、実際の体験として共有しながら、一冊の本をつくること(アイデアや想いをかたちにする、言語化すること)について考えたイベントです。今回は、視覚障害者とともに美術鑑賞することで、視覚では捉えられない世界や美術作品が持つ魅力を描こうとするノンフィクション作家の川内有緒さんの次作の本づくりを、ワークショップとクロストークで探りました。ワークショップでは、全盲の美術鑑賞家の白鳥建二さんと水戸芸術館現代美術センター・教育プログラムコーディネーターの佐藤麻衣子さんとともに興福寺国宝館を訪れ、参加者が白鳥さんに仏像などの姿かたちや感じたことを説明しながら鑑賞し、終了後に感想の共有など総括を行いました。後半は、川内さんの本づくりにも関わっている画家・装丁家の矢萩多聞さんも交え、先のワークショップをふまえた本づくりへのプロセスや、作家として、取材される側として、また装丁など本の作り手として、「本をつくる」魅力やストーリーなどを語り合うクロストークを繰り広げました。

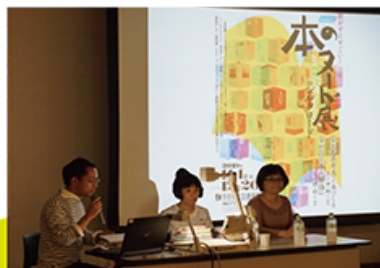
ワークショップ & クロストーク

声に出して読んで味わう読書会2019

新たな読書会として今年度から開催した本読書会は、声に出して本を読んで、言葉のもつ、響き、独特のリズム、舌触りなどを楽しみ、内容について感じたことを話し合ってみるというものです。テキストは石牟礼道子著『水はみどろの宮』で、コーディネーターは劇作家・俳優の小栗一紅さん。月一回、参加者が分担して音読しながら一章ずつ読み進め、お互いに話合うことで、新たな視点や知識が共有される場であるとともに、朗読会の要素も加味したユニークな読書会となっています。また、毎回著者やその関連図書とブックリストを用意し、読書会をきっかけに新たな本との出会いも演出しています。



11/16 大島真寿美さんと本づくり



本イベントは、図書展示「本のヌード展」(11月1日～12月27日)にあわせて開催しました。「本のヌード展」は、カバーと表紙のデザインのギャップの面白さなどに注目し、さまざまな分野の方々が選んだそれらの本を展示し、観覧者が実際に触りながらその面白さを体感するもので、装丁や造本にこだわる直木賞作家・大島真寿美さんの作品づくりを紹介するコーナーや、本づくりのプロセスをさかさまから学ぶ「本の解体展」もあわせて行いました。「大島真寿美さんと本づくり」では大島さんと古書店主の坂上友紀さんが、また「本の解体SHOW！」では本づくりに携わる製本家の笠井瑠美子さん、一人出版社三輪舎代表の中岡祐介さん、画家・装丁家の矢萩多聞さんがクロストークを展開し、「本の解体 SHOW！」ではさらに、笠井さんによる実際に本を解体しながらの造本に関する解説コーナーも設け、本づくりを疑似体験する興味深いイベントとなりました。



12/15 本の解体SHOW!

2020. 1/19 「自分たちのミニライブラリーを創ろう！」ー 分類をデザインするー

ワークショップ

天理市主催の本ワークショップは、本を使ったアートイベントとしてクリエイティブユニット「graf」と図書情報館が企画しました。天理市にあるギャラリー「Art-Space TARN」を会場に、無作為に選んだ図書情報館の所蔵 300 冊を持ち込み、それらの本から日本十進分類法にない新たな分類を設定してミニライブラリーを作るという内容です。

当日は参加者を 2 グループに分け、当館の司書と大和郡山市の書店「とほん」店主・砂川昌広さんがそれぞれのナビゲーターとしてディスカッション→テーマ設定→本のセレクト→ディスプレイの順に進め、最後にプレゼンテーションと振り返りを行いました。配置にこだわり、スマホのストップウォッチ画面を並べたり、あるページを開いた状態で完成形とするなど、手に取ることが前提の図書館や書店にはないアート作品としての展示ができました。セレクトや演出で本の魅力をより引き出せることを再認識する機会となりました。



❖ 2019年度の図書展示から ❖

❖ 新元号「令和」❖

2019年
5月1日～6月30日 2階フロア各所

改元を記念し、奈良県立万葉文化館との連携事業として行いました。



万葉文化館では特別企画展示が行われ、当館では、新元号の出典となった『万葉集』や現在の皇室に関する図書、元号の歴史、暦(こよみ)および過去の改元における出典や漢字文化に関する図書を並べるとともに、当館が所蔵する江戸時代の『万葉集』刊本や元号に関する古文書、大正および昭和改元時の公文書、大正以降の改元時の新聞などを、解説文とともに展示しました。

期間中「大化」から「令和」までの元号を一覧にしたシールパネル「好きな元号はどれ?」を設置したところ一番シールが貼られたのはダントツで「平成」でした。ちなみに「令和」は2位で、3位は「昭和」でした。



(中西 玄)

❖ それは、科学か魔法か❖

2019年 8月1日～9月29日
3階ブリッジ

『2001年宇宙の旅』で有名なSF作家・科学解説者のアーサー・C・クラーク氏が定義した三法則の一つが「高度に発達した科学技術は魔法と区別がつかない」というものです。この法則を元に、科学と魔法(空想)という相反する主題の資料を「創造・移動・思考・伝達」のよつのカテゴリーで展示することで、科学技術が魔法(空想)に近づいていること、これからたどっていく未来を想像してもらうというコンセプトで展示を行いました。



読みやすい小説と科学技術の図書を組み合わせるとともに、各分野で最新科学技術を使用しているALE、ユカイ工学、CYBERDYNE、筑波大学飯塚里志氏、D-wave社、パリティ・イノベーションズが



提供していただいたイメージ写真やキャプション等を元に、活動が分かるパネルを作成し、各企業のチラシと共に並べました。このこと

で、視覚的に最新科学技術をイメージしやすいようになりました。またD-wave社からは量子コンピュータのユニットを、パリティ・イノベーションズからは空中に映像が映るデモ機を借用し、より身近にイメージしやすいようにしました。本物の機器を展示することで、図書展示をより深みのある構成に仕上げることができました。



(山崎 純)

❖ 本と見る正倉院と復元楽器❖

2019年 10月1日～10月30日 3階ブリッジ



らでんしたんごげんびわ きんぎんひょうもんきん
「螺鈿紫檀五絃琵琶」や「金銀平文琴」を製作者からお借りして展示しました。

また、10月26日には、関連イベントとして復元楽器を使用して天平の音色を再現するミニコンサート「正倉院復元楽器とシルクロードの楽師たち」も開催しました。

(西川 慶子)

奈良国立博物館で毎年開催される「正倉院展」にあわせて企画した、正倉院および天平楽器の系譜を図書でたどる展示です。

正倉院宝物の由来に関する図書を中心に、正倉院展図録、正倉院宝庫の歴史や正倉院宝物の修復に関する図書などとともに、正倉院に収蔵されている楽器を復元した





昭和の東京オリンピックや大阪万博の頃(昭和30~40年代)の奈良をテーマに、公文書館機能を有する当館の特色を活かした展示として企画し、普段は書庫に収蔵している公文書や地図資料などを展示ケース内に陳列するとともに、より多角的に当時の様相を振り返れるよう解説文や年表、写真パネルを作成して並べました。

このうち解説文と年表は、A4版に印刷して配布したところ、予想以上に多くの方が持ち帰ってくださり、このテーマへの関心の高さが伺えました。

また、展示をご覧のみならず当時の思い出やエピソードを自由に書いていただくよう設置したノートには、思い出などのほかに展示に対する意見や感想なども寄せられました。

そこでノートの内容を随時転記して展示スペース各所で紹介し、来館者も一緒に展示に参加する工夫を行いました。これらにより、既製品ではない当館オリジナルの展示物を作成することができたと思います。

毎年いくつかの図書展示を開催していますが、公文書館機能を兼ね備えた当館の一面を知っていただけの機会となったのではないのでしょうか。

(松田 憲子)



❖ 高度経済成長期の奈良 ❖

— 昭和の東京オリンピック・大阪万博の時代を知る —

2020年 1月5日~2月16日 3階ブリッジ

❖ JBBY世界の子どもの本展 ❖

2020年 2月1日~2月16日

3階ブラウジングコーナー



当館初開催となったJBBY世界の子どもの本展は、IBBY(国際児童図書評議会)が隔年で表彰している各国の児童書を同年の国際アンデルセン賞受賞者の作品とともに集め、全国を巡回展示するものです。

世界61の国・地域から選ばれた50言語・約200冊の児童書を並べ、普段は見ることの少ない外国の絵本や小説などの原書を手に取ってもらうことができました。

最終日には、ロシア児童文学研究者の南平かおり氏による「世界の子どもの本はこんなに面白い!」と題した講演会を行いました。ロシア語の作品をスクリーンに映して内容やイラストの細部まで丁寧な説明していただき、時代背景や色使い、絵の意味などを理解することで、作品の深層に触れることができました。南平氏は最後に、絵本『おおきなかぶ』に出てくるロシアのカブが「実は黄色です」と明かされ、ロシアの原書を見せていただきました。本当に黄色でした。



講演のあと、参加された多くの方が資料展示会場にも足を運んでくださいました。展示に関する講演を聞いたうえで作品に触れ、改めてその面白さを理解でき大変良かったと好評をいただきました。

(松村 順子)





明治期公文書のデジタル化



明治期の公文書

当館には、明治期の公文書が 4 千冊以上あります。公文書は古文書と同様に歴史を調査・研究する上で貴重な一次資料で、閲覧利用も年々増加していますが、明治期のものは作成から 100 年以上経過していることから相応な経年劣化が見られますし、中には青焼き図面や寒天版（寒天・水・グリセリンを使った技法による印刷物）のように光にさらすことによって線や文字が消えゆくものも含まれているため、利用に伴う劣化を防止することが課題となっています。また、館内閲覧限定ですので遠方にお住いの方には利用しにくい資料でもあります。これらの課題を解消するの

が、デジタル化してウェブ上に公開することです。

明治期の公文書には、陵墓関係や寺社関係のものが相当数あります。これらは頻りに利用されるため、同じく利用の多い町村制移行関係や鉄道関係等の公文書とともに、予算化できるタイミングを見つけてはデジタル化を実施しており、昨年度もまた、国を挙げて明治 150 年関連施策が推進されたのを機にデジタル化を行いました。

今回実施したのは、奈良公園史編纂資料や家禄奉還願など合わせて 47 冊です。奈良公園史編纂資料は、明治 13 年の奈良公園開園に至るまでの経緯やその後の様々な記録が綴られた公文書群で、近年新たに所蔵資料となったものです。原資料はかなり劣化しているものが散見され、青焼き図面も多く、文字部分も寒天版が含まれています。家禄奉還願は、明治士族が現金と引き換えに旧藩の家禄を返上した際の申請書で、住所や禄高が記載されていることから先祖調査に利用されることも多い資料です。

入札により決定した委託先は歴史資料のデジタル化に豊富な実績がある株式会社ムサシで、撮影枚数は 1 万 6 千枚強にのぼり、昨年 3 月にウェブ公開を完了しました。すべて約 300dpi の高精細な JPEG ファイルで、右図のようにスケールとカラーチャートを入れてあります。

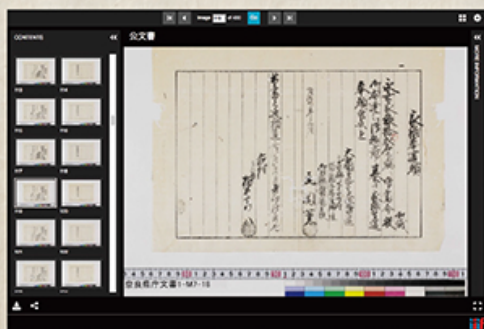
画像は当館が提供している IIIF（ウェブ画像を共通形式で表示する国際規格）対応の「まほろばデジタルライブラリー」で検索・閲覧できます。また、蔵書検索システムの原資料目録情報とリンクさせているので、検索結果画面にあるスキャナー型のリンクアイコンからも画像をご覧いただけます。当館の IIIF 対応ビューワは「Universal Viewer」ですが、たとえば

「Mirador」を利用し、他の機関が提供している IIIF 対応画像と一緒に複数並べて閲覧するなどの活用もできますので、ぜひお試しください。

(中西 玄)



撮影風景（株式会社ムサシ提供）



元新選組隊士・尾関薫の家禄奉還願



Mirador による閲覧
左図は当館「自明治二十一年至二十五年 公園改良二関スル書類」
右図は国文学研究資料館「大和名所圖會」（寛政 3 年）

洋書の収集について

当館では、国際交流資料として日本の歴史・文化・社会等を紹介した資料（Books on Japan）、日本文学の翻訳作品、奈良に関わる資料、日本語に翻訳された諸外国の古典および代表的な作品の原書など、在住外国人が日本での生活に役立つ資料、各国の文化を知る資料の充実に務めています。対象言語は、英語、中国語、韓国語など県内在住外国人の多い言語を中心とし、バランスのとれた収集を心掛けています。

今年度は、洋書の品揃えが豊富な書店に赴いて選書し、谷崎潤一郎、川端康成、大江健三郎、村上春樹、東野圭吾、多和田葉子、小川洋子など日本を代表する作家の翻訳書や、シリーズで所蔵している『Puffin Classics』『Puffin books』の最新刊、アンリ・ベルクソンの原書や日本のしきたり、文化を紹介した Books on Japan など、幅広い分野の資料を選定できました。日本の文化や歴史を広く知る機会にしていだければと思います。

また、Puffin シリーズは、イギリスの出版社である Penguin books が世界の名作児童文学を揃えたものですので、原書を楽しみながら英語学習を進める一助になると考えます。（西川 慶子）



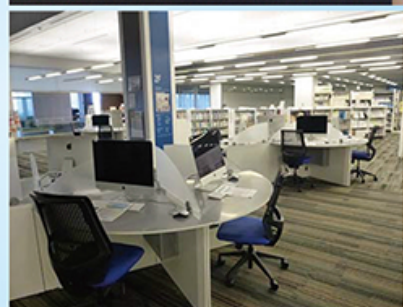
館内設備のリニューアル

当館には、閲覧席が約 400 席ありますが、開館から 10 余年が経過し、椅子の布地が傷んできましたので、昨年度から今年度にかけて張り替えを行いました。さらに、同じく不具合が増してきたパソコン利用席、AV ブース、オーサリングルーム、アトリエの椅子についても、全台入れ替えを行い、落ち着いたデザインに変更しました。

また、交流ホールでの図書館劇場、図書館学校等のイベント時に「講師のマイクの音が聞き取り難い」という声が多く寄せられたことから、天井スピーカーの新設、マイク設備の増設を行い、AV 設備を改良しました。改良後は、マイクの音が聞き取り難いという声も皆無になり、一定の成果が得られたものと考えています。加えて、傷んでいたスクリーン設備を入れ替え、電動式に変更したほか、プロジェクターを床置きから天井吊に変更しました。

これにより、夏場にプロジェクターの排気熱が直接当たって暑くなるということがなくなり、座席配置の自由度も増えました。さらに、交流ホールの南側窓の半数を開閉できるように変更し、空気の入れ替えがしやすいように改良しました。

（川畑 卓也）



蔵書検索に関するリニューアル



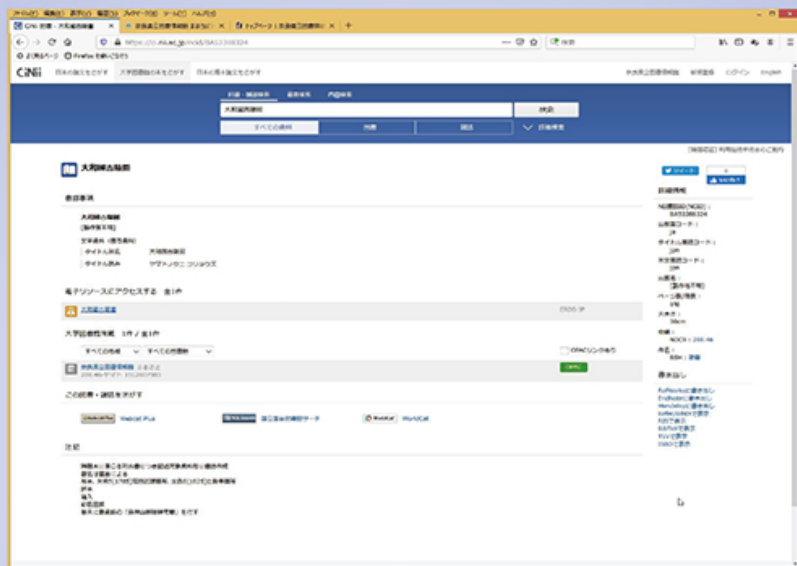
① OPAC

2018年度から2年かけて、OPAC（当館蔵書検索システム）のリニューアルを行いました。利用が増しているスマートフォンからの検索に応えるべく、当館Webページをはじめ、OPACをレスポンスWeb対応にし、パソコンで利用できるほぼすべての機能をスマートフォンからも利用いただけるようになりました。また、資料の検索結果から、より多様な情報（目次情報、1次情報、NDLサーチ・CiNii等の外部データベースサービス）を参照しやすくし、検索結果を広げたり、絞込んだりできるように、デザインを一新しました。



② まほろばデジタルライブラリー

2018年度から、まほろばデジタルライブラリーのリニューアルを進めています。今年度は、公文書、古文書、絵図、古典籍の全デジタル画像の公開形式をJPEG形式から、PyramidTIFF形式に変換。デジタルアーカイブ公開の国際標準であるIIIFに対応させました。並行して、品質の悪いデジタル画像について、当館のデジタルスタジオ等で撮影をし直し、解像度をできる限りあげました。また、これらの全資料について、当館OPACから、まほろばデジタルライブラリーの該当資料へのリンクアイコン



を付与し、容易にデジタル画像へたどりつけるようにしました。さらに、デジタル画像がある古典籍資料については、CiNii Books上に、NII ERDB-JP（国立情報学研究所が運用する電子リソースデータのナレッジベース）を介して、当館まほろばデジタルライブラリーの該当資料へのリンクアイコンを付与、デジタル画像へ容易にたどりつけるようになっています。今後、奈良県文化財建造物保存修理事業撮影写真のIIIF化のほか、国文学研究資料館の歴史的典籍NW事業に参加し、未だデジタル化していない当館古典籍のデジタル化を行い、まほろばデジタルライブラリーでの追加提供を予定しています。

（川畑 卓也）

6月

4[火] ムジークフェストなら 2019 in 図書情報館大阪フィルハーモニー交響楽団員によるクラリネットカルテットコンサート
ブルックス 信雄 トーン、船隈慶、金井信之、田本摂理が、ピアソラ「タンゴの歴史」、デスポール「ノルマンディ組曲」などを演奏しました。



7[金] ムジークフェストなら 2019 in 図書情報館片岡リサ箏コンサート～独奏曲で綴る箏の魅力～ 箏曲家片岡リサが松村禎三作曲『幻想曲』、宮城道雄作曲『月のかがみ』などを演奏。



片岡リサ

15[土] コウモリ観察会～こもり博物館観察会企画 2019 第2回

15[土] 図書館寄席 花鹿乃芸亭第51回 <プログラム> 桂源太「開口一番」、桂文鹿「山鉦巡行」、桂文華「お楽しみ」、中入り、桂文鹿「仔猫」



29[土]～7/28[日] 映像作家 保山耕一 常設上映 『20年目の祈り～なら燈花会 2018～』

7月

6[土] コウモリ観察会～こもり博物館観察会企画 2019 第3回

17[水]～28[日] チャッピー岡本「ゆかいな妖怪カブリモノ展」 チャッピー岡本とその教え子たちがデザインした妖怪カブリモノ約40点を展示。期間中の週末には、自分だけの妖怪カブリモノをカブリモノ変心塾を開催しました。



24[水] 夏の能楽講座 薪能へ行こう 夏の風物詩・薪能について、奈良を拠点に活躍する能楽師・親世流大鼓方 森山泰幸が、大阪・生国魂神社で開催される「大阪薪能」(8月11&12日)の演目「土蜘蛛」などについてレクチャーしました。



11[土] コウモリ観察会～こもり博物館観察会企画 2019 第1回 NPO 法人東洋蝙蝠研究所・こもり博物館がナビゲート。「コウモリ探知機」を使い、夕暮れ時に庭園を飛び交うコウモリを観察しました。



14[火]～6/27[木] 映像作家 保山耕一 常設上映 『映像詩、飛鳥』

11[土] ブックシェルフをつくるワークショップ あらかじめ用意した吉野杉の木材を組み立てて、ブックシェルフ(本棚)をつくるワークショップ。木材の性質や工具の基本的な使い方についても学びました。講師は和田トモコ(一級家具製作技能士)。



近鉄百貨店草津店 × 奈良県立図書情報館「ならの妖怪たち」展示: 5/8[水]～12[日] イベント: 5/12[日]

近鉄百貨店奈良店 × 奈良県立図書情報館「ならの妖怪たち」展示: 5/22[水]～28[火] イベント: 5/22[水] 25[土] 26[日] 「ならの妖怪」について、ライターで編集者の小我野明子さんが図書情報館の本や資料を参考にしながら解説文を、紙芝居作家のなかたにゆかさんが妖怪画を書き下ろし、図書情報館が造作した「ならの妖怪たち」を展示。会期中には「妖怪紙芝居」や「妖怪クイズラリー」を行いました。



21[火] オーストリア文化フォーラムプレゼンツ 一人芝居「エミーリエ・フレゲ愛されたミュージ」 世紀末ウィーンを代表する画家グスタフ・クリムトの没後100年にちなみ、クリムトの愛人、モデルとして有名なエミーリエ・フレゲを主人公にした一人芝居を上演しました。



26[日] 図書館劇場 XIV 第1幕 図書情報館開館年の平成18年から続く、千田稔図書情報館長による連続公開講座。<プログラム> 映像詩 保山耕一 (映像作家)、講演①「古代の元号について。」千田稔 (当館館長)、朗読「万葉集」より平城京をよむ都築由美 (フリーアナウンサー)、講演②「天平人の生活白書 都の発掘調査からわかること」森下恵介 (奈良県立橿原考古学研究所共同研究員、元奈良市埋蔵文化財調査センター所長)



2019年度のイベントと展示

4月



2[火]～5/12[日] 映像作家 保山耕一 常設上映 『映像詩、氷室神社』

5日[金] 佐保川の春音楽の日 2019 大阪フィルハーモニー交響楽団員によるピアノ三重奏コンサート 佐保川の桜並木を背景に、館内外でリレーコンサートやアート作品展示等を行う「佐保川の春音楽の日・アートの日」。大阪フィルハーモニー交響楽団員によるピアノ三重奏コンサートを開催しました。



9[火]～21[日] 木版画作家 宮田渚作品展 奈良大和路 宮田は1939年三重県上野市生まれ。80歳。69年橿原市に移住後、版画を始め、奈良の風景をテーマにした作品を制作してきました。今回の展覧会では、1989年発行『奈良大和路・宮田渚木版画集』(発行:みやざき書店、絶版)から「明日香」などを題材にした作品56点を展示しました。



5月

5[日] 佐保川の春音楽の日 2019 古楽デュオが奏でるバロック音楽コンサート～イタリア・オーストリア・ドイツバロック音楽の魅力～ バロック・ヴァイオリン奏者ウッラ・ブンディースと、チェンバロ奏者高田泰治によるバロック音楽コンサートを行いました。



10月

映像作家 保山耕一

2019年10月の作品
『安倍文殊院 ～コスモス迷路～』
JAMM 10/1 (土) 9:30 (木)

1[火]～30[水]映像作家 保山耕一 常設上映
『安倍文殊院～コスモス迷路～』

10[木] ドイツ ベルリン カニジウス校室内オーケストラ 演奏会 in NARA カニジウス校は、ベルリンにある私立の古典語学校で、オーケストラはサークル活動の一つです。当館での演奏会は 2013 年以来 2 回目の開催となりました。

14[月・祝] 『殺陣』チャンネル時代劇映画上映会 + 講演会 戦前のチャンネル映画の上映会と講演会を開催。上映作品は、山中貞雄監督（一九〇九～三八）『河内山宗俊（こうちやまそうしゅん）』。登壇者は小川順子・中部大学教授。

22[火]～30[水] 藍と刀 布都正崇鍛刀場（ふつのまさたかたんとうじょう・天理市）の刀匠・布都正崇と、藍染め作品を制作する rukki 夫妻の仕事のパネルで紹介。27[日]には関連イベント「山の辺の道マーケット」を開催しました。

26[土] 出前図書情報館 in 東吉野村「天誅組と東吉野村」 県内の市町村と連携し、地域にまつわるテーマで講演会を行う第一回。東吉野村開催の「天誅組フェスティバル」午後 5 時の部にて、講演会とパネルディスカッションを開催。○講演：橋本紀美 安堵町歴史民俗資料館長 ○パネルディスカッション：橋本紀美、草村克彦（天誅（忠）組記念館館長）、阪本基義（前東吉野村教育長）、千田稔

映像作家 保山耕一

2019年9月の作品
『聖林寺の四季』 (12月・10月・8月)
JAMM 8/31 (土) 9:26 (木)

31[土]～9/26[木]映像作家 保山耕一 常設上映
『聖林寺の四季』

9月

10[火]～29[日] 『絵本作家岡田よしたか展』28[土]おはなし会&サイン会 大和郡山市在住の絵本作家岡田よしたかの原画展。9/28には作家によるおはなし会とサイン会を開催しました。

22[日] 図書館劇場 XIV 第3幕 <プログラム>映像詩 保山耕一、講演①「大嘗祭について」千田稔、朗読 梓澤要著「橋三千年」（新人物往来社）より「元明女帝」都築由美、講演②「萬葉集の橘の歌」奥村和美（奈良女子大学大学院人文科学系教授）

28[土] 29[日] さほがわ秋のほんまつり 新刊書店、古書店、出版社、雑貨、フードの店などが集まるマーケットを開催しました。企画協力：とほん

29[日] 歴史小説家 澤田瞳子 × 千田稔 奈良県立図書情報館長 講演会「聖武天皇についてとことん語り合う」 さほがわ秋のほんまつり関連企画。歴史小説家・澤田瞳子さんの最新刊『月人壮士（つきひととおとこ）』から、聖武天皇とその周辺について、澤田さんと千田館長が対談しました。

28[日] 図書館劇場 XIV 第2幕 <プログラム>映像詩 保山耕一、講演①「三種の神器の日本史」千田稔、朗読『大鏡』巻二より「左大臣藤原時平」都築由美、講演②「平城京と大宰府」狭川真一（元興寺文化財研究所副所長）

8月

映像作家 保山耕一

2019年8月の作品
『奈良七十二候～夏～』
JAMM 8/29 (土)

1[木]～29[木]映像作家 保山耕一 常設上映
『奈良七十二候～夏～』

3[土] 図書館寄席 花鹿乃巻 第52回 <プログラム>桂雪鹿「開口一番」、林家染二「お楽しみ」「8分対談」、桂文鹿「お酒は二十歳から」「お文さん」



14[水]～25[日] やまとの妖怪、24[土]25[日] 夏まつり 昭和8年に発行された『大和の伝説』（民俗学者・高田十郎編、大和史跡研究会発行、昭和34年増補版発行、当館所蔵）から選んだ妖怪にちなむお話し10編をもとに、紙芝居作家なかたにゆかとライター小我野明子がイラストと文を書き下ろし、図書情報館職員がデザイン&造作をしたポップアップ絵本を展示しました。また、関連企画として「図書情報館の夏まつり」を8/24&25に開催。古書店、雑貨、フードの店が並ぶほか、ワークショップ、紙芝居の実演を開催。特別企画として奈良の民俗芸能「田原の祭文音頭」（8/24）、「室生獅子神楽」（8/25）をご披露いただきました。

田原の祭文音頭 (8/24)

室生獅子神楽 (8/25)

11月



奈良県立図書情報館二階美術画廊入口・常設上映
2019年11月の作品
映像詩、秋桜
上映時間：11/1【9】-26【4】



映像作家 保山耕一

1【金】～28【木】映像作家 保山耕一 常設上映
『映像詩、秋桜』

1【金】→17【日】車木工房と版画のいろいろ。展
高取町の車木工房で作られた、奈良ゆかりの有名作家による作品 40 点以上と、長らく途絶えていた伝統技法・石版リトグラフを復活利用した新作を展示。出品作家・小泉淳作、ヨーク・シュマイサー、杉本健吉、柳原義達、井



田照一、入江観、大津英敏、五味秀夫、佐々木麻こ、Mariya Suzuki ほか。2【土】3【日】16【土】は、いろいろなお店が集まるマーケットを開催しました。



車木工房と版画のいろいろ。展

2【土】図書館寄席花鹿乃莖亭 第53回 <プログラム>
森乃石松「開口一番」、笑福亭由瓶「松山鏡」「補欠」、桂文鹿「たばこの火」、笑福亭鉄瓶「お楽しみ」

3【日】出前図書情報館 in 河合町「河合の古代を語る」
河合町「文化祭・産直市」に合わせて開催。テーマは「河合の古代を語る」。○講演 辰巳和弘（元同志社大学教授）○パネルディスカッション 辰巳和弘（元同志社大学教授）、吉村公男（河合町教育委員会生涯学習課長）、千田稔



19【火】→12.8【日】自然写真家佐藤和斗作品展「DEER PARK -世界でここにしかない奇跡の場所-」
奈良在住の写真家・佐藤和斗作品展。写真集などから約 70 作品を展示。会期中には講演会とサイン会も開催しました。



24【日】図書館劇場 XIV 第4幕 <プログラム>映像詩 保山耕一、講演①「飛鳥苑地再考」千田稔（当館館長）、朗読 三島由紀夫著「奔馬」（『豊饒の海』第2巻新潮社より）都築由美（フリーアナウンサー）、講演②「三国志と邪馬台国一黒塚古墳出土の旗（旌幢）をめぐって」東潮（徳島大学名誉教授）



千田稔図書情報館長



奈良県立図書情報館二階美術画廊入口・常設上映
2019年12月の作品
映像作家 保山耕一



映像作家 保山耕一

30【土】～1/5【日】映像作家 保山耕一 常設上映
『大和の月 其の一』

12月

7【土】図書館寄席花鹿乃莖亭 第54回 <プログラム>
月亭希遊「開口一番」、桂春蝶「やかん」「中村仲蔵」、桂文鹿「親子茶屋」「さわやか勝負パンツ」



8【日】出前図書情報館 & 講演会 in おおよど「近代の吉野」
「近代の吉野」をテーマに開催。○講演1：松田度（大淀町教育委員会学芸員）○講演2：成瀬匡章（古写真コレクター）○クロストーク：松田度、成瀬匡章、千田稔



14【土】15【日】本と旅するクリスマスマーケット
年末恒例のマーケットは「本」と「旅」がテーマ。新刊書店、古書店、雑貨、フードの店などが集合。関連企画として「本と旅するマーケット」出店者の旅の思い出、旅にまつわるお気に入りの本を紹介するショートエッセイをパネルで展示しました。（10【火】～15【日】）。企画協力：松井さや子（アジアマーケット）、中国俊也（国際交流の会とよなかTIFA）



本と旅するクリスマスマーケットのようす

1月



奈良県立図書情報館二階美術画廊入口・常設上映
2020年1月2月の作品
映像作家 保山耕一



映像作家 保山耕一

7【火】～2/27【木】映像作家 保山耕一 常設上映
『多武峰の四季』

7[火]11[火]大阪若手能楽講座
in 奈良図書館で学んで能楽堂へ行こう！ 関西で活躍する40歳までの若手能楽師が中心メンバーの「大阪若手能」による連続講座を開催。講座1、2では能楽師がレクチャー。能楽鑑賞会「第29回能楽研究会大阪公演『若手能』(2020/1/18[土]・大規模能楽堂・大阪市)にて、講座で学んだ演目を鑑賞しました。(能楽鑑賞は希望者のみ)・講座1講師：福王流ワキ方喜多雅人、観世流大鼓方森山泰幸・講座2講師：観世流シテ方山田薫、森山泰幸



11[土]12[日]13[月祝]
春待ちマルシェ <奈良のおいしいものと手作り作家のマルシェ>春に向けて少しずつ動き出す季節に、奈良の素敵なメンバーが元気を届けるマルシェを開催しました。企画協力：十八製作所



春待ちマルシェの様子

11[土]2019年度
こども能楽教室～能楽のお囃子「大鼓(おおつづみ)」「笛(ふえ)」のお稽古をしてみよう～発表会 関西の能舞台を中心に活躍するプロの能楽師が、囃子の道具「笛」「大鼓」の稽古をつけるほか、あさいつや正座など、美しい立ち振る舞いについても学ぶ「こども能楽教室」。18人の女子児童が参加し、発表会では着物と袴を着て、プロの能楽師と一緒に演奏をしました。講師：能楽森田流笛方森田啓子、能楽観世流大鼓方森山泰幸



発表会の様子

26[日]図書館劇場 XIV 第5幕
<プログラム>映像詩 保山耕一(映像作家)、講演①「修験道の成立と吉野」千田稔(当館館長)、朗読 白洲正子著「飛鳥散歩」(白洲正子全集第4巻エッセイ(新潮社)より)都築由美(フリーアナウンサー)、講演②「飛鳥時代の大変革～古墳の終わり～」岡林孝作(奈良県立橿原考古学研究所調査部長)



2月

22[土]～3/1[日]日本少女歌劇座 大和郡山発 大正・昭和を駆け抜けた旅する少女スタア達 かつて、大和郡山に本社を置き、日本全国を巡業した少女歌劇団「日本少女歌劇座」の絵葉書やチラシなどの資料を展示。協力：大和郡山市立図書館、監修：京都文教大学教授 鶴岡正樹。29[土]は講演会開催予定のところ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、代替て鶴岡教授による展示解説を行いました。



29[土]～ 映像作家 保山耕一 常設上映
『佐保川の桜 / 吉野山蔵王堂 金峯山寺』

3月

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月のイベントはすべて中止。

通年

医療相談 済生会奈良病院瀬川雅毅院長による「医療・健康相談会」を毎月開催。瀬川院長が健康についてアドバイスし、2020年2月15日には「第128回」を迎えました。相談会場の近くには、関連図書を集めた「医療・健康情報コーナー」も設置しています。

図書館学校 主として高校時代の教科科目から、今に繋がるテーマをピックアップし、もう一度学び直す講座「図書館学校」を開講。1年を3期に分け、3ヶ月を単位に受講者を募集。各期3分の2以上受講された方には、修了証を授与しました。(第1期:5～7月、第2期:9～11月、第3期:1～3月)



法務相談 毎月1回開催。相続・遺言、成年後見、公正証書、交通事故、離婚、不動産、帰化、在留資格、会社設立、クーリングオフ、農地転用、年金、社会保険など法律問題についてアドバイス。相談会前には相談の多い事例をテーマに知識セミナーも。参加無料。



中小企業診断士による体験学習会 & 無料経営相談会 体験学習会では、問題分析や問題解決の手法などについて講義。無料経営相談会では、新事業の立ち上げ・資金繰りなどの経営課題についてアドバイス。2019年度は5、6、7、11、12、1月に開催しました。



日本弁護士会近畿支部奈良地区会による『知的財産講座&無料相談会』 産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)の取得、著作権、地理的表示の登録申請に関する相談、知的財産について弁護士が対応する相談会。講座への参加、相談は無料。2019年度は4、6、12月に開催しました。



(伊藤 享子)